みんぱく映画会

特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」関連イベント

新型コロナウイルス感染症対策のため通常と申込方法が異なります

みんぱくワールドシネマ

映像から考える＜人類の未来＞

©COPYRIGHT LA CASA DE PRODUCCIÓN - LES FILMS DU VOLCAN 2019

第54回上映会

2023年5月27日［土］ 13:30～15:55（開場13:00）

場所　国立民族学博物館 みんぱくインテリジェントホール（講堂）要展示観覧券

定員　350名　事前申込をされた方には、当日11:00から本館2階会場前にて入場整理券を配付します。

主催　国立民族学博物館

La Llorona

2018年／グアテマラ／97分／スペイン語・カクチケル語・イシル語

日本語字幕付き

監督／ハイロ・ブスタマンテ

出演／マリア・メルセデス・コロイ　マルガリータ・ケネフィック

司会　菅瀬晶子（国立民族学博物館 准教授）

解説　鈴木　紀（国立民族学博物館 教授）

申込方法

事前申込制（先着順）での開催となります。受付期間：2023年4月24日（月）～5月19日（金）16時（定員になり次第受付終了）

当館ホームページのイベント予約サイトよりお申込みください。（代表者含め2名まで）

電話でのお申込みも受付けます。次の必要事項をお知らせください。※メールでのお申込みは受付けておりません。ご了承ください。

①イベント名　②参加人数（代表者含め2名まで）　③氏名（漢字、フリガナ）　④連絡先（固定電話/携帯電話/メールアドレスのいずれか）

（③、④は代表者のみ）

【申込先】企画課博物館事業係イベント予約受付　Tel: 06-6878-8210（10時～16時 土日祝除く）

受付期間内に定員に満たない場合のみ当日参加を受付けます。予約状況はイベント予約サイトでご確認ください。

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、イベントを変更・中止する場合があります。事前にホームページでご確認ください。

※解説時に手話通訳が必要な方は4月28日（金）までにお申込みいただき、その旨をお知らせください。

イベント予約サイト↑

国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

関西から文化力
POWER OF CULTURE

特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」関連イベント　みんぱく映画会

みんぱくワールドシネマ

映像から考える＜人類の未来＞

国立民族学博物館は2009年よりさまざまなテーマを設定し、研究者による解説つきの映画上映会「みんぱくワールドシネマ」を開催してきました。今年度も「映像から考える＜人類の未来＞」をテーマとし、世界の人びとのさまざまな生活・考え方を描いた映画をとおして、よりよい未来を考えていきます。今回上映するグアテマラ映画「ラ・ヨローナ～彷徨(さまよ)う女～」は、中南米で伝わる怪奇伝説を題材に、グアテマラの暗黒の歴史を浮き彫りにした作品です。現代の人びとが、過去の悲劇から学べることについて考えてみたいと思います。

第54回上映会

2023年5月27日(土)13:30～15:55（開場13:00）

場所　国立民族学博物館 みんぱくインテリジェントホール(講堂)　要展示観覧券

定員　350名　事前申込をされた方には、当日11:00から本館2階会場前にて入場整理券を配付します。

主催　国立民族学博物館

ラ・ヨローナ～彷徨(さまよ)う女～　La Llorona

2018年／グアテマラ／97分／スペイン語・カクチケル語・イシル語／日本語字幕付き
監督／ハイロ・ブスタマンテ
出演／マリア・メルセデス・コロイ　マルガリータ・ケネフィック

司会　菅瀬晶子（国立民族学博物館 准教授）
解説　鈴木　紀（国立民族学博物館 教授）

映画解説

中南米で古くから伝わる“ラ・ヨローナ（泣く女）”伝説をモチーフに、内戦下で凄惨な犠牲を生んだグアテマラの近代史の闇に、ホラーの要素も取り入れ斬新なアプローチで迫る。1980年代初めにマヤ系先住民族に対して凌辱や虐殺を重ねるなど、膨大な死者や行方不明者を出したとされる政府軍を指揮した罪で公判中の元将軍エンリケは、一旦は下された有罪判決も程なく覆り、自身の屋敷に舞い戻る。猛抗議に詰めかけた群衆に包囲され、籠城生活を強いられる一家に謎めく新入りメイドのアルマが加わるが、先住民を侮蔑し夫の暴虐の過去からも目を背けるエンリケの妻と、愛する父に懐疑的な葛藤を抱く娘との齟齬が深まる中、邸宅内で奇異な現象が相次ぐ。みんぱくワールドシネマでも上映された長篇デビュー作「火の山のマリア」(15)でベルリン国際映画祭銀熊賞に輝いたハイロ・ブスタマンテ監督が、再び母国のグアテマラを舞台に、現実と幻想とのあいだを行き交いつつ、生命の尊厳を訴え、政治腐敗を根絶するべく負の歴史を問い直し、次世代へと未来を託す、物悲しくも厳粛な趣の意欲作だ。（映画評論家 服部香穂里）

記憶と抵抗のための映画

多くのグアテマラ人にとって映画「ラ・ヨローナ～彷徨(さまよ)う女～」は、フィクションではない。1960年代から1996年まで続いた政府軍とゲリラ間の紛争により、20万人以上の市民が殺戮され、その83%は先住民族であったと推定されている。中でも1982年にクーデターで政権についたエフライン・リオス・モント将軍には先住民族イシルに対する集団虐殺を指揮した嫌疑がかけられている。彼は2013年に懲役80年の有罪判決を受けたが、グアテマラ憲法裁判所は、被告に弁論の機会が十分に与えられなかったことを理由に判決を覆した。2015年に始まった再審は、被告が心臓発作によって2018年に死去したため、結審しないまま終了した。この結果、集団虐殺の事実だけが残り、その責任は曖昧なままである。こうした事態に対してハイロ・ブスタマンテ監督が制作したのが本作である。国家によって行使された暴力を記憶し、責任が問われないことの不正義に抵抗するための映画である。その意義は、現在開催中の特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」の第4章で紹介している「記憶と抵抗の過程」の中で制作された作品と共通するものである。（鈴木 紀）

映像から考える＜人類の未来＞

国立民族学博物館 准教授　菅瀬晶子

映画がこの世に誕生して、120年あまり。最初は日常生活の一端を切り取ったものでした。いまや日本では年間に1300本に迫る数の映画が公開され、その内容も多種多様です。世界のさまざまな地域で、現在進行形で起きている問題を扱う作品も年々増えてきました。問題意識を喚起する手段として、映画は実に有効なのです。

みんぱくワールドシネマでは、所属する研究者の個別研究や現在進められている研究プロジェクトの内容に沿った映画を選び、その内容を研究者が解説することによって、最新の研究成果と映画のより深い理解を観客のみなさまと共有することを目的としています。紛争、差別、環境変動などを超えて、異なる価値観を持つ人びとはどう共存してゆくべきか。終映後、あらたな視座がみなさまの中に生まれれば、さいわいです。

©COPYRIGHT LA CASA DE PRODUCCIÓN - LES FILMS DU VOLCAN 2019

特別展 ラテンアメリカの民衆芸術

2023年3月9日(木)—5月30日(火)
場　所：国立民族学博物館 特別展示館
観覧料：一般 880円、大学生 450円、高校生以下無料
●本館展示もご覧になれます。

木彫（ヤギのナワル）／メキシコ合衆国　撮影：六田知弘、六田春彦
※詳細は当館ホームページをご確認ください。

次回作品　2023年9月30日(土)予定

最後の渡り鳥たち

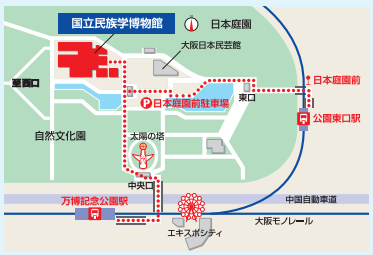
The Last Birds of Passage／Turna Misali
2021年／99分／トルコ／トルコ語／日本語字幕付き
監督　イフェト・エレン・ダヌシュマン・ボズ
出演　シェンヌル・ノガイラル　ネジメティン・チョバンオウル

協力：東京国際映画祭　©IEDB Film

国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

ご来館のみなさまへ　新型コロナウイルス感染症の状況によっては、会期・イベント等を変更・中止する場合があります。事前にホームページでご確認ください。

●開館時間…… 10:00 ～ 17:00（入館は 16:30 まで）
●休館日…… 水曜日（水曜日が祝日の場合は、翌日が休館）
●観覧料…… 一般 580 円／大学生 250 円／高校生以下 無料
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内
●大阪モノレール… 「万博記念公園駅」、「公園東口駅」下車徒歩 約 15 分
●バス…… 阪急茨木市駅・JR 茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩 約 13 分
●乗用車…… 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩 約 5 分
※大学生・一般の方は万博記念公園各ゲートで、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
※高校生以下の方、国立民族学博物館友の会会員の方は万博記念公園各ゲート有人窓口で、みんぱくへ行くことをお申し出いただき、通行証をお受け取りください。
※万博記念公園をご利用になる場合は、同園入園料が必要です。

〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
企画課　博物館事業係
Tel: 06-6878-8210 Fax: 06-6878-8242
https://www.minpaku.ac.jp/